

特選一席

（選者五十音順
自由題・題詠の順に掲載）



● 池田はるみ 選

忘れ得ぬ恨みあるらし百歳が百三歳の姉にあかんべ

大分 阿南 光彦

声出して泣くこと明日も生きることまだ一歳の君に教わる

香川 藤川 晃子

● 小池 光 選

内腿の弾痕白くなりてさへ比島を語るなかりき 父よ

鹿児島 棚上 紀

鉛筆をけずりはじめて匂い立つ生きてる木の香ひとり愛しむ

神奈川県 堀越 幾也

● 小島 なお 選

風を食べ宙に飛んでくレジぶくろ一枚五円のお金にげる

神奈川県 渡邊 洵

世界史の画面は過不足なく進むあの脱線が先生なのに

福岡 広瀬 建人

● 三枝 昂之 選

媼らのお国訛りが絡み合い通草の蔓は籠になりゆく

秋田 藤原 和男

生国を出たこともなき母は今異国の人に介護受けおり

栃木 青木 一夫

● 斉藤 斎藤 選

絶食中に夫がこつそり食べしとふ（ビスコ）の赤き一箱供ふ

福岡 瀬戸口真澄

薬局の袋有料そうなのだ生まれ変わったような感覚

愛知 牧 正吾

● 坂井 修一 選

ぎやぎやぎやと叫んでマスクを外したいわれのなかにもいるハクビシン

千葉 山口希代子

教科書に（娘売ります）立て札の写真のありき母生れし村

山形 名取 榮子

● 佐佐木幸綱 選

目より下覆ひしままの授業にも笑ひは起る六月の午後

茨城 菅野 公子

生駒嶺を撃つ稻妻を遠見つつあと一息の棟上げいそぐ

大阪 森宗 良富

● 俵 万智 選

「別れた」とぼつりと告げし子のための食事は普段通りに作る

愛知 西村 愛美

茶毒蛾の百匹ほどの幼虫を殺し椿の一本を生かす

埼玉 渡部 清枝

● 寺井 龍哉 選

サンダルの君が小石につまずいて肩の向こうにユリカモメ飛ぶ

愛媛 梅原 秀敏

「しばらくはまだ生きますよ」ピンク色のブラウス買って風に見せたり

東京 西村佳津子

● 永田 和宏 選

そのことに触れるやさしさそのことに触れぬ優しさ雨もやんだよ

群馬 石坂加津子

世界史の画面は過不足なく進むあの脱線が先生なのに

福岡 広瀬 建人

● 東 直子 選

わたくしの月を見むとて裸眼にす海月のやうに呼吸してをり

徳島 岡本留音紗

モーツァルトの鬢かつらのやうな雲湧きて老人ホームは「お誕生会

埼玉 荻原 信子

● 穂村 弘 選

ウィルスの記事ひとつなき一枚を選びて折りたり端午の兜

岡山 加藤 三雄

「今朝生まれ亡くなりました」ゴーゴーと窓打つ風の音さへも消ゆ

千葉 熊田 恵

● 松村 正直 選

ウィルスの記事ひとつなき一枚を選びて折りたり端午の兜

岡山 加藤 三雄

世界史の画面は過不足なく進むあの脱線が先生なのに

福岡 広瀬 建人

◆ 特選 二席——自由題（選者五十音順）

池田はるみ 選

読経終えしずかに僧侶振り向けば幼
が立ちて拍手をしたり

神奈川 小室 誠二

小池 光 選

身のこなし隈なく見えて観客のをら
ぬ相撲は古式めきたり

東京 竹本 賢治

小島 なお 選

喜びを音符に記ししベートーヴェン
山栗はいま花に満ちたり

島根 田中 勝美

三枝 昂之 選

からだじゅう土の匂いになった頃夕
焼け空に母の声する

神奈川 江連れいこ

斉藤 斎藤 選

夕空と夜空のまざりあふ坂をバスに
ゆれつつ鼓動おちつく

大阪 三友 素子

坂井 修一 選

夢叶い教師となりし孫よ今マスクの
子らの瞳と語れ

愛知 原田 勝子

佐佐木幸綱 選

志ん生の後志ん朝で口直し異なるも
近し楽し親子よ

神奈川 篠崎 敏雄

俵 万智 選

何気なく受け取るティッシュユ日常は
手のひらにまず戻りてきたり

千葉 森中 香織

寺井 龍哉 選

大空に寒風受けて高き風糸巻きがほ
ら君の手の中

長野 酒井千代美

永田 和宏 選

夕光ゆうかけにラップの端をさぐるごと君の
メールを読みかえしたり

千葉 篠崎実千代

東 直子 選

ひさびさに木洩れ日ゆるる園に来て
病む夫の言う小鳥探せり

東京 田中由美子

穂村 弘 選

五線譜にはじめて音符を書くように
君と話した春の教室

北海道 住吉和歌子

松村 正直 選

絶食中に夫がこつそり食べしとふ
〈ビスコ〉の赤き一箱供ふ

福岡 瀬戸口真澄

